

# キャンパスを歩き、街を訪ねる。

国際動物資源科学研究所の松本安喜准教授と東大生協農学部店を訪ね、  
獣医病理学研究所の中山裕之教授と西片の軽食喫茶を覗く。

## 聞き耳マーケティング繁盛記

### 生協購買部

「コーンスープを入れてください。心も体も温まりたいです」。店頭の「ひとことカード」を読んで思わず笑った。ここは3号館地下にある生協購買部。

正式名は東京大学消費生活協同組合農学部店だ。

明るい店内には飲料や食品、文具が並び、各種の注文を受け付けるカウンターもある。奥に学食があるせいかレジの前は人の波が絶えない。

「3年前エレベーターが設置された関係でちょっと狭くなりましたが、利用者数はほぼ変わりません」と話すのは店長の<sup>なみかわこういち</sup>湊川浩一さん。震災の年に着任し、以来店を切り盛りしている。新潟大や長野大、都内の大学生協で仕入れのアドバイスをしてきた<sup>てだれ</sup>手練だ。

「POSシステムの分析もやっていますが、一番大事なのはお客様の生の声」と言う。店頭の「ひとことカード」もその一例だが、店内のなにげない会話にも耳を澄ます。「最近あれがなくなった、これが欲しいという声が聞こえてきたら、入れるようにしています」

国際動物資源科学研究所の松本安喜准教授もこの店の

ファンのひとり。シャッターの閉まりかけに飛びこんであわてて買物をすることもある。

研究の合間にお腹を満たす菓子パンやカップ麺はもちろんだが、イチオシのおすすめはなんと「生活便利袋」。口がしっかり閉まるファスナー付きビニール袋だ。動物病のワクチン研究で海外にフィールドワークに出かけたとき、採取したサンプルを密封包装するのに最適なのだという。

「ただ名前がねえ……」と先生は少し顔を曇らせる。「調査サンプル用包装袋」なら経理の通りもいいが「生活便利袋」ではまた小言を言われる。

「この商品は特別ルートで仕入れているんですよ」と湊川店長。たしかに見ると商品ラベルが違う。「農学部の先生に昔から要望が多いんです。他店でも置けばヒット商品になるかもしれない。ただ、商品名だけはどうにも……」と苦笑する。

店長いわく「かゆいところに手が届く品揃え」が信条の、農学部御用達ショップだ。



松本安喜准教授(左)と湊川浩一店長

